

令和 8 年 3 月 3 0 日  
国土交通省九州地方整備局  
遠賀川河川事務所

## 遠賀川水系内外水統合の多段階浸水想定図・水害リスクマップを公表

～流域治水の取り組みを更に推進～

遠賀川河川事務所では、遠賀川水系の国管理区間からの氾濫のほか、支川からの氾濫や下水道等の内水氾濫を考慮した「遠賀川水系内外水統合の多段階浸水想定図※<sup>1</sup>」及び「遠賀川水系内外水統合の水害リスクマップ※<sup>2</sup>」を公表します。

本取組は、土地利用や住まい方の工夫、水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討及び企業の立地選択など、流域治水の取り組みを推進することを目的としています。

### ※1 多段階浸水想定図

想定最大規模に加え、より頻度の高い複数の降雨規模ごと（年超過確率 1/10、1/30、1/50、1/100、1/150）に作成した浸水想定図のこと

### ※2 水害リスクマップ

多段階の浸水想定図を用いて、降雨規模ごとの浸水範囲を浸水深ごと（0.0m 以上、0.5m（床上浸水相当）以上、3.0m（1階居室浸水相当）以上）に重ね合わせて作成した図面のこと

○遠賀川水系内外水統合型の多段階浸水想定図及び水害リスクマップについては、遠賀川河川事務所のホームページ（下記 URL）より閲覧可能です。

<https://www.qsr.mlit.go.jp/onga/disaster/index.html#naisuigai>



おんががわ流域治水

### 【問合せ先】

国土交通省 九州地方整備局 遠賀川河川事務所

技術副所長 尾後 大輔（おご だいすけ）

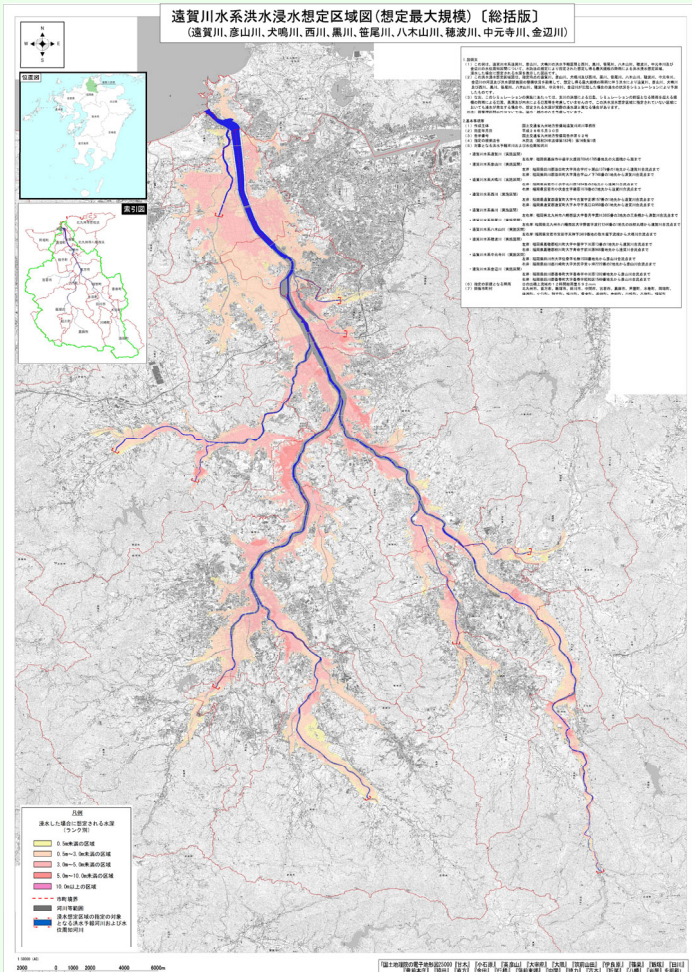
建設専門官 古賀 忠直（こが ただなお）

電話：0949-22-1830（代表）

# 洪水浸水想定区域図について

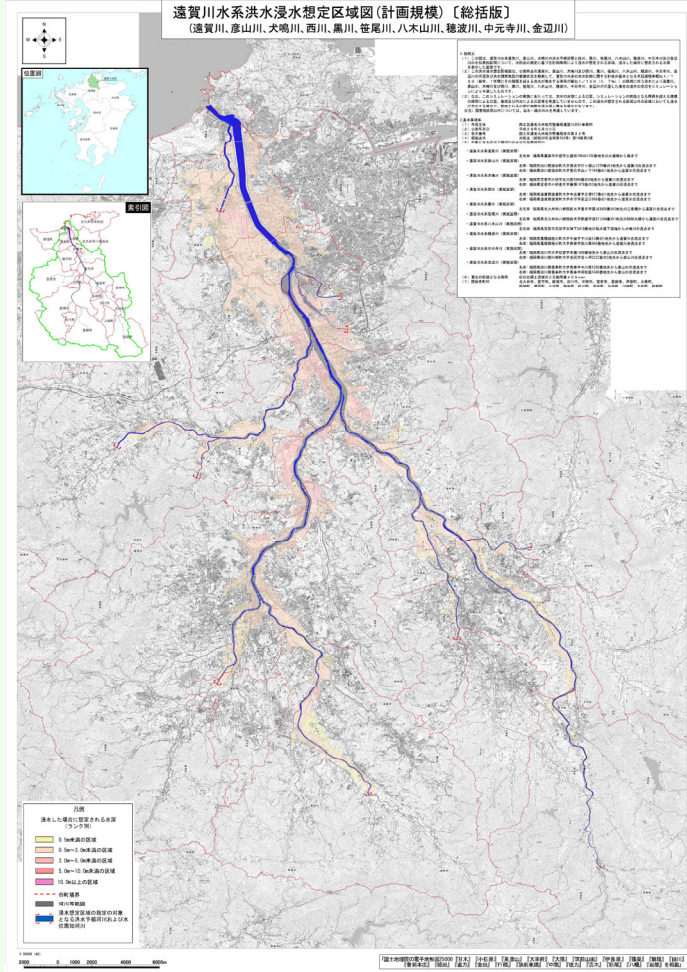
○これまで水防法に基づき住民等の迅速かつ円滑な避難に資する水害リスク情報として、想定最大規模降雨および計画規模を対象とした「洪水浸水想定区域図」を作成、公表してきました。(H28.5.30公表)

## 【洪水浸水想定区域図（想定最大規模）】



※H28.5.30公表

## 【洪水浸水想定区域図（計画規模）】



※H28.5.30公表

凡例  
浸水した場合に想定される水深  
(ランク別)

0.5m未満の区域
0.5m～3.0m未満の区域
3.0m～5.0m未満の区域
5.0m～10.0m未満の区域
10.0m～20.0m未満の区域
20.0m以上の区域

# 多段階浸水想定図・水害リスクマップについて

○これまで水防法に基づき住民等の迅速かつ円滑な避難に資する水害リスク情報として、想定最大規模降雨および計画規模を対象とした「洪水浸水想定区域図」を作成、公表してきました。（H28.5.30公表、前頁参照）

○これに加えて、土地利用や住まい方の工夫の検討、水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討など、流域治水の取組を推進することを目的として、発生頻度が高い降雨規模の場合に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにするため、令和4年に国管理河川からの外水氾濫を対象とした「多段階浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を作成、公表してきました。（R4.4.26公表）

### 【多段階浸水想定図（外水氾濫）※】

※国管理河川からの氾濫

想定最大規模に加え、高頻度から中頻度で発生する降雨規模ごとに作成した浸水想定図

凡例

浸水した場合に想定される水深（ランク別）

- 0.5m未満の区域
- 0.5m～3.0m未満の区域
- 3.0m～5.0m未満の区域
- 5.0m～10.0m未満の区域
- 10.0m～20.0m未満の区域
- 20.0m以上の区域

※例（R4.4.26公表）

重ね合わせ

### 【水害リスクマップ（外水氾濫）※】

※国管理河川からの氾濫

多段階浸水想定図を用いて、降雨規模ごとの浸水範囲を浸水深ごと（0以上、0.5m以上（床上浸水）、3.0m以上（1階居室浸水））に重ね合わせた図面

凡例

- 高頻度（1/10）
- 中高頻度（1/30）
- 中頻度（1/50）
- 中低頻度（1/100）
- 低頻度（1/150）
- 想定最大規模（L2）

※河道条件：現況河道

※例（R4.4.26公表）

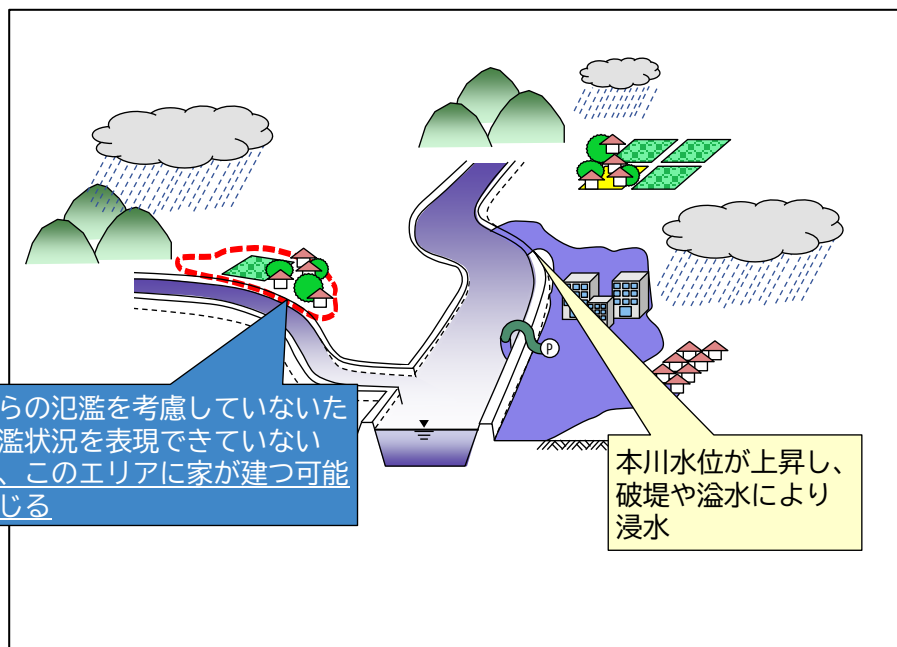
# 多段階浸水想定図・水害リスクマップについて

○前頁の洪水浸水想定区域図（H28.5.30公表）や国管理河川からの外水氾濫を対象とした「多段階浸水想定図」及び「水害リスクマップ」（R4.4.26公表）は、主要河川（本川）からの外水氾濫のみを対象としていますが、高頻度、中高頻度の外力に対しては、本川氾濫に先んじて内水氾濫、支川氾濫が生じる可能性が高いため、特に高頻度、中高頻度のリスクを表現できていない可能性があります。

○そこで今回、支川氾濫や内水氾濫も考慮した内外水統合型の水害リスクマップを作成しました。

R4.4.26公表

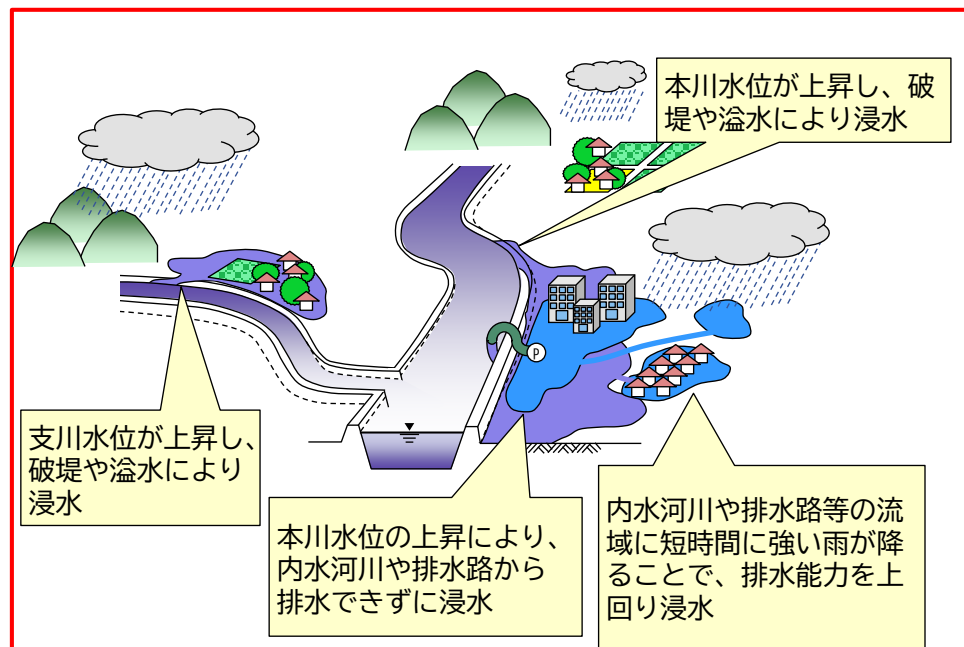
<外水氾濫のみ>



主要河川の外水氾濫を対象とした  
氾濫解析のイメージ

今回公表

<内・外水一体型氾濫>



内外水統合型の  
氾濫解析イメージ

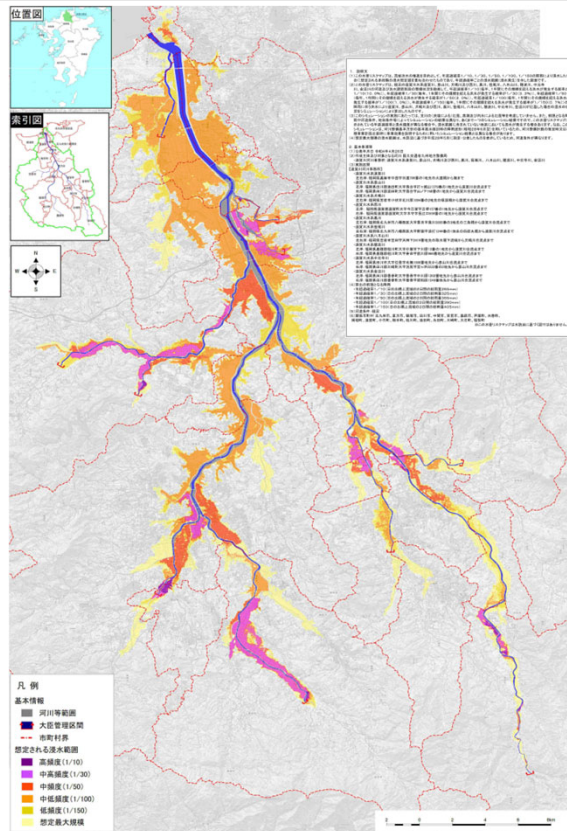
- 内外水統合のリスクマップは、左記の外水氾濫結果に、「支川氾濫」と「内水氾濫」による結果を重ねたものである。
- 内水氾濫シナリオは、降雨のみで計算上浸水が発生する（浸水範囲が過大になる）おそれがあるため、10cm未満は「浸水なし（非表示）」としている

# 内外水統合型水害リスクマップについて

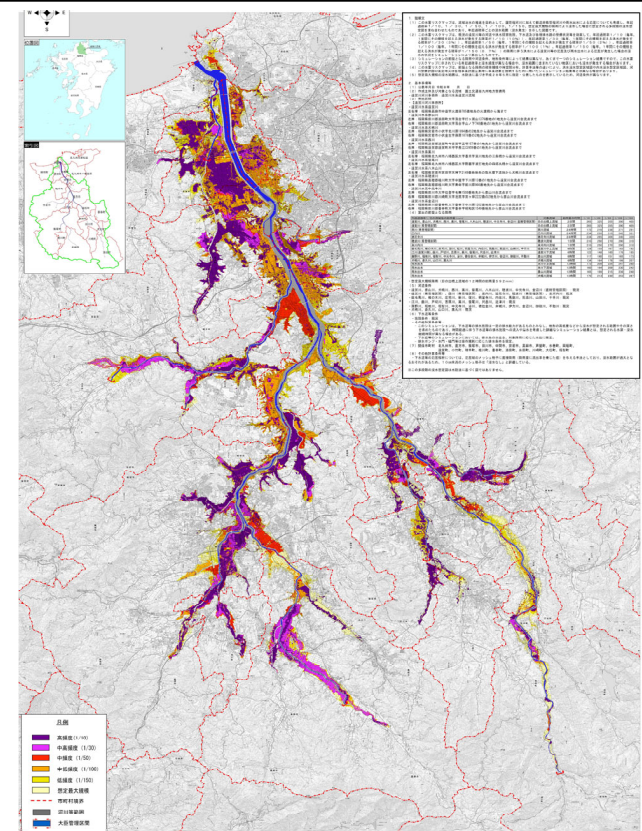
○今回公表する「内外水統合型水害リスクマップ」は、前頁で示した国管理河川からの外水氾濫に加えて内水氾濫による浸水リスクを一体的に表現したものです。

○外水（本川）と内水（支川、下水道等）の氾濫状況を一体で示すことにより、高頻度、中高頻度においても内水氾濫も含めた氾濫状況を表現することができ、浸水実態に即した避難計画や防災まちづくりの検討への活用が期待されます。

R4公表：外水の水害リスクマップ



今回公表：内外水統合型水害リスクマップ



内水河川や排水路等を計算モデルに加えることで、内水氾濫も考慮した高頻度や中高頻度の浸水リスクを表現

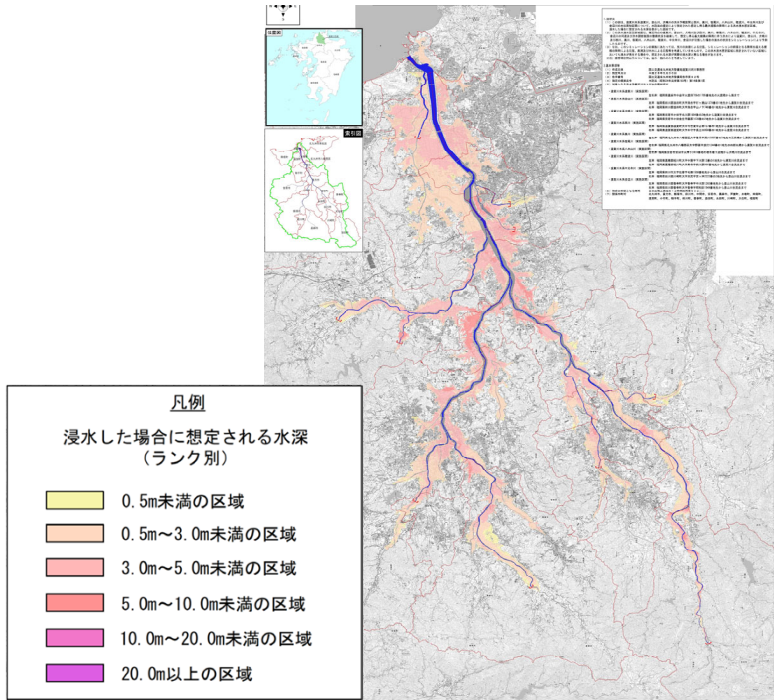
凡例

高頻度 (1/10)
中高頻度 (1/30)
中頻度 (1/50)
低頻度 (1/100)
想定最大規模 (L2)

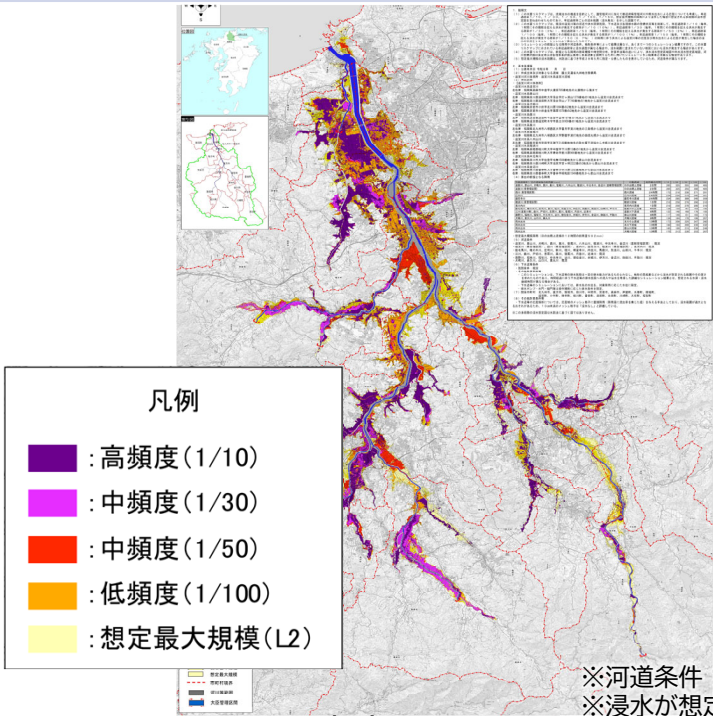
外水の水害リスクマップと内外水統合型水害リスクマップの比較  
(浸水範囲：浸水が想定される範囲を表示)

# (参考) 洪水浸水想定区域図と水害リスクマップの違い

	洪水浸水想定区域図	水害リスクマップ (浸水頻度図)
表す情報	浸水範囲、浸水深 (m)	浸水範囲、浸水頻度
主な用途	避難行動	防災まちづくり、企業立地選択等
降雨条件	想定される最大規模の降雨	発生頻度の異なる降雨



洪水浸水想定区域図 ※例 (H28.5.30公表)



※河道条件：現況河道  
※浸水が想定される範囲を表示

水害リスクマップ ※ (今回公表)

○洪水浸水想定区域図は、最悪の事態を想定して命を守るという観点から、避難が必要となる場所と安全な場所を把握することを目的としています。

○水害リスクマップでは、降雨の発生確率ごとの浸水範囲を表示することで、**中小規模の洪水でも比較的浸水しやすい場所が把握できます。**

# (参考) 水害リスクマップの見方・活用例

## 3つの図を並べて見比べる

### 【土地利用や住まい方の工夫に利用する場合】

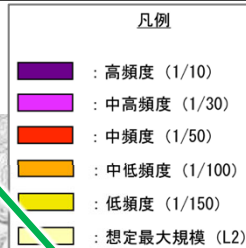
居住スペースや1階をピロティ構造にするなど、建築構造の参考にするなどの活用が考えられます。

### 【企業立地選択等に利用する場合】

浸水頻度の高い場所への施設の立地を避けるほか、浸水確率を踏まえて事業継続に必要な資機材を2階以上に移動する、止水壁を設置するといった対策の検討に活用することが考えられます。

### 【水災害リスクを踏まえたまちづくり・避難所設置に利用する場合】

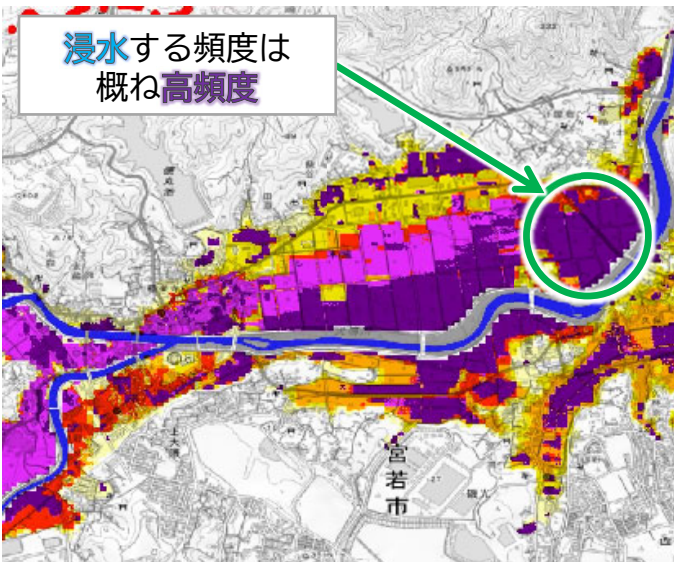
立地適正化計画における防災指針の検討・作成への活用などが考えられます。



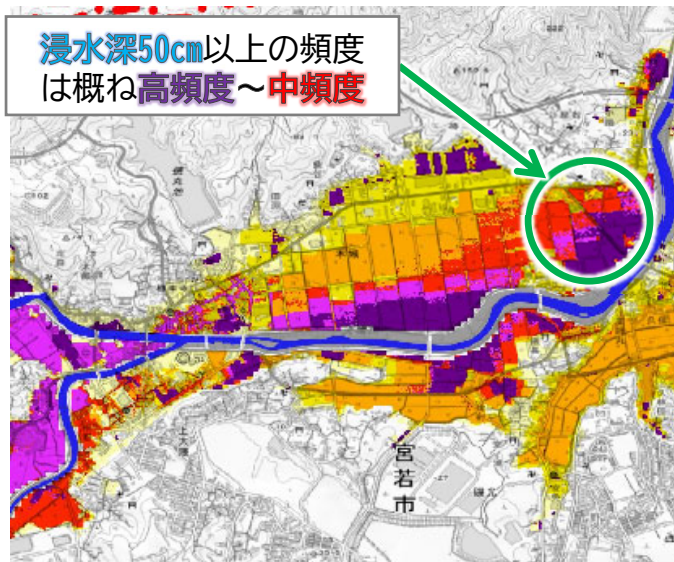
浸水する頻度は  
概ね高頻度

浸水深50cm以上の頻度は  
概ね高頻度～中頻度

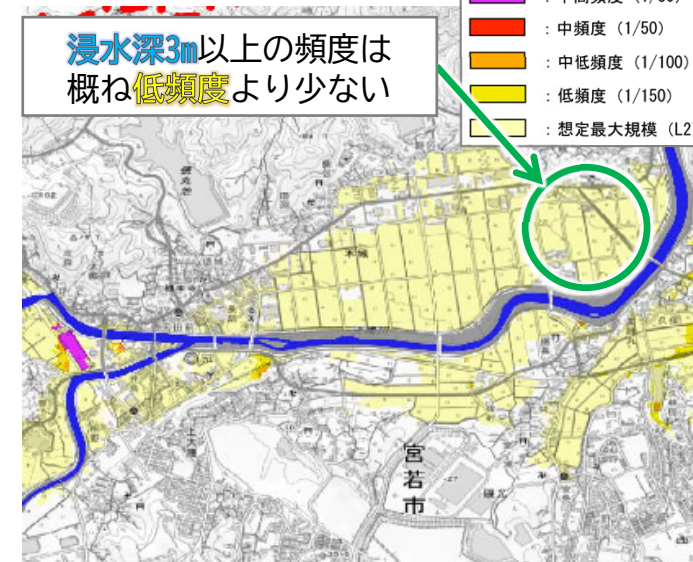
浸水深3m以上の頻度は  
概ね低頻度より少ない



① 浸水する範囲



② 浸水深50cm以上  
(床上浸水相当以上)



③ 浸水深3m以上  
(1階居室浸水相当以上)